



【2018-06-20】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう

今週の雑感

『談合報道に学ぶ、自分を
知る瞬間』

長野修二

先般、大林組がライバル社と『飲み会』を禁止するということが、メディアで報道されました。

建設業界の談合は、一種の年中行事のようなものであらゆるところで談合がおこなわれているのではないのでしょうか。

特に国内企業だけで建設工事を請け負うことが当たり前の我が国のような閉ざされた環境からすれば、長年談合によって建設会社の利益が確保されてきたことは、多くの国民が理解しているところでしょう。

問題はなにも建設業界に限らず日本企業の多くが業界ごとに業界団体をつくっており、なにかと業界がまとまって政治や官僚に働きかけをおこない業界の利益確保に邁進しているのも周知の事実です。私が経験した中では、営業時代の業界も明らかな談合体質でした。ただし、30年以上も前の話ですから、現在どのような対応をとっているかはわかりませんが、今でも各製品の値上げ時などの様子を見てみると、当時の光景が思い出されます。

しかし、現在のことは事実を確認していませんので、どうなっているかわかりません。

毎年、談合の話題がメディアなどでてきますが、どの業界でも大手企業が主導しているのが特徴でしょうか。

6月14日にはANA制服納入における談合の摘発が報道されましたが、こちらも主導しているのは大手百貨店でした。

とくに建設業界だけでなく、隙あらばどのような業界でも談合が起きるのが、我が国の特徴かもわかりません。

すぐに、みなで仲良く利益を配分しましょうと、いうことになりません。

仕事柄最前線の社員は、闘志むき出しで営業活動に邁進していますが、その上の管理職や経営職あたりは、業界団体の集まりで他社の管理職や経営職と顔を合わせることも少なからずあります。

また、自らが営業の最前線で仕事をしていたときの競業他社の営業担当も、同じようにそれぞれの企業で昇進していきますから、管理職や経営職になったとき、現場時代のお互いを知っているため、それぞれの立場が変わってからは、相手を蹴落とすまで戦うよりも双

方話し合って利益を確保しようという欲求が高まりそうです。

しかして、販売先や納入価格の事前調整がおこなわれるような気がします。

しかも、最前線時代には、なにも考えず上司にいわれたとおり、談合に加担していることが当たり前でしょうから、当時の上司から学んだように談合を進めていくでしょう。

談合は最前線の社員よりも、あきらかに管理職や経営職レベルでおこなわれるものです。

また、最前線の社員は取り扱う製品や商品の販売数量が少なく、談合してもたいしたメリットができませんからそもそも他社と価格調整をする気にもならないものです。

大きな数量の中で価格調整をすることでそれぞれの企業のメリットがでますから、必ず管理職や経営職が談合を主導していると想像されます。

さらに管理職や経営職は、常に経営目標の達成を義務付けられているからこそ談合の誘惑にかられてしまい、それぞれの企業の管理職、経営職が同じ穴の貉化します。

しかも業界団体の集まりもあり、日常的に談合の下地ができているようなものではないでしょうか。

ここにも終身雇用制の弊害がでてしまいます。

同じメンバーが業界内で上がっていく構造だからですが、終身雇用でもよい部分（機能）もありますが、悪い方にでると、談合などではこれがなかなか止められないことになりそうです。

このような談合体質の社会にあって大林組の取り組みは、相当明確にルール化されています。

なかでも、『AI（人工知能）を活用して同業他社が宛先や発信元となっているメールの内容を内部監査部門がチェックするといった対策も強化する』といった対応は、内部けん制上は有効です。

他方、個人のスマホやPCを利用したメールのやりとりもありますから、どこまで談合をやめることができるかは疑問が残るところです。

経営職（社長）を守るうえでは、内部統制の関係で企業内部で発覚されるような談合のやりとりはするなということではないでしょうか。

あくまで個人レベルで対処しろと、いうことになるのかもわかりません。

ルールができたから違反がなくなるかと言えば、人間がいる以上そんなことはありません。

まして他社がそのようなことをやめる前提がない以上、個人レベルで巻き込まれることも理解しておくべきです。

最前線の社員は、絶対にかかわらないことです。

内部通報しても社内でもみ消されることもありますから、仕事の意味をもって自ら活動することに尽きます。

日ごろからこのような状況におかれたら、自分はどのような対応をするかというシュミレーションしておくことです。

そうでないと、いざというときに自が正しい行動をとるなど、そんなにやさしいものではありません。

だからこそ、仕事の基本（人生の基本）を習得しておかなければなりません。

各状況は個人ごとに違います。

そして自分の立ち位置を日々作る努力が個人に課せられます。